

平成 16 年度老人保健健康増進等事業報告書

ユニットケア導入のための指針
(施設の整備・運営とケアのあり方) の
開発・評価等に関する研究報告書

平成 17 年 3 月

社会福祉法人 浴 風 会

認知症介護研究・研修東京センター

はじめに

21 世紀の高齢者介護の報告書に提言された「高齢者の尊厳を支えるケア」は、“その人らしい暮らし”や“寄り添うケア”などという言葉で表現されるように、「個別ケア」に向け、確実に浸透し始めてきた。

その具体的方法として、特別養護老人ホームでは「ユニット」ケアが制度化され、取り組みが本格化してきた。建物は基準に沿い建設されるが、従来型と比べ「全室個室」「小規模ケア」という画期的なケア方法であるユニットケアを具体的にどのように展開していくのか、その基本的知識を学ぶため、平成 15 年度より「ユニットケア研修」が事業化され、認知症介護研究・研修東京センター（以下東京センター）では、その研修を受託し 2 年間取り組みを行った。

「個別」とはいつても、それは居室等、環境が単に「個」になるだけではない。利用者を個別的に支援していくということは、同時に援助者である職員自身のあり方も問われてくるのである。

そこで、ユニットケアを実践していく職員の研修においては、ユニットケア実践の現状を把握した上で、何が課題であり、何が求められているのかを明らかにし、それらを研修プログラムに組み込んでいくことが必要となってくる。

ユニットケア利用者の生活支援に携わる職員の管理者及びユニットリーダーを受講対象とした研修において、本研究では、当研修に参加した 400 施設（受講者）の研修時の諸データを基に、ユニットケアの導入及び運営にかかわる一連の実態、管理者・職員の意識、これからの課題についてまとめた。

また、データ分析の結果、ユニットケアの整備状況と受講生の実態が明らかになり、それは当研修のこれからのあり方と方向性を検討する材料ともなった。

始まったばかりであるともいえるユニットケアの実践の中で日々奮闘する職員の、なによりも利用者である高齢者のよりよい生活を作っていくために、本研究の結果が研修に有効的に活用され、それらが実践に生かされていくものとなることを期待する。

最後に、本研究事業の実施にあたり、多大なるご協力を頂いた各施設、職員の皆様に心からのお礼を申し上げたい。

ユニットケア導入のための指針(施設の整備・運営とケアのあり方)の
開発・評価等に関する研究報告書

I.	本研究の目的	3
II.	ユニットケアの実態	4
	1. 平成14年～平成16年度 全国のユニットケア整備状況	
	2. 平成14年～16年度 都道府県・政令指定都市別にみたユニットケアの推移	
	3. 平成15、16年度ユニットケア研修の受講施設数	
	4. 平成15、16年度の受講施設におけるユニットケアの施設整備状況	
III.	ユニットケア施設の現状把握(ユニットケア導入施設の実態)	17
	1. 平成16年度ユニットケア研修に参加した施設の概要について	
IV.	平成16年度 研修受講者の事前アンケートからの把握	24
	1. 平成16年度ユニットケア研修について	
	2. 受講施設の概要	
	3. ユニットケアの実践のために重要なポイントについて	
	4. ユニットケア導入のための手段(方法)について	
	5. 情報伝達について	
	6. ユニットケアの課題点	
V.	考察	62
	1. 平成16年度ユニットケア研修受講施設の概要の考察	
	2. 事前アンケートのまとめ(IV章より)の考察	
VI.	受講生意識(研修受講者事前課題集約)	70
	1. ユニットケア管理者研修受講者	
	2. ユニットケアユニットリーダー研修受講者	
VII.	資料	121
	1. 平成16年度ユニットケア研修実施日程	
	2. 平成16年度ユニットケア研修カリキュラム	
	管理者講義研修カリキュラム	
	ユニットリーダー講義研修・実地研修カリキュラム	